

元世界銀行副総裁

にしみず
西水

みえこ
美恵子さん

人間発見



世界銀行で23年にわたり途上国の貧困解消に取り組んだ西水美恵子さん(62)。1997年に南アジア地域担当の副総裁に就任した。地域担当副総裁としては日本人初、女性初。各国元首と堂々と渡り合

い「鉄の女」とも呼ばれた。米国のプリンストン大学で経済学を教え始めて5年目、研究も波に乗り始めたころ、世界銀行から

「1年の研究休暇をうちの研究所で過ごさないか」という誘いを受けました。契約にあたっては、途上国の貧しさを自分の目で見てくることが条件でした。そこでエジプトを訪ね、人生を大きく変える体験をすることになります。

首都カイロにある「死人の町」に足を運びました。邸宅のような墓が立ち並ぶ富裕層の墓地に、貧

しい人々が住み着いていたところ。そこで、地べたに座り込んで娘を抱えて泣き崩れている母親に出会いました。その子の名はナ

の思いは、口にしようとすると涙がこみあげ、誰にも言えないまま長年胸の中にしまっていました。帰路、飛行機のなかで思い迷い

日本人初・女性初、地域担当の副総裁に

カイロでの瀕死の少女との出会いが転機

ヒマラヤ貧村滞在で、貧困への考え覆される

ディア。すぐに医者呼びナディアを抱きとったところ、羽のような軽さにギクリとしました。下痢から脱水症状を起こして瀕死(ひんし)の状態。まもなく私の腕のなかで息を引き取りました。

豪邸マンションの谷間をベンツが走り回る大都会のご真ん中です。なんとという貧富の差か。民を思わぬ悪統治ではないか。この時に残っています。むずかしい課題

術は既に日本にあった。しかし、大型事業の費用対効果をはかるなどソフト面では教わるが多かった。世銀の本命は融資ではなく、客観的な分析にもとづいた知識の提供にあるのです。

村には働き盛りの男性はほとんどいません。戦争か出稼ぎに出てくるか、まき拾いで数週間家を空けているか。アマもまた戦争で夫を亡くしていた。夢は子どもに教育を受けさせること、でもそれもかないません。

豪邸マンションの谷間をベンツが走り回る大都会のご真ん中です。なんとという貧富の差か。民を思わぬ悪統治ではないか。この時に残っています。むずかしい課題

の思いは、口にしようとすると涙がこみあげ、誰にも言えないまま長年胸の中にしまっていました。帰路、飛行機のなかで思い迷い

たとき、父は「金貸しになり下がるのか」と怒りました。その父に、新幹線の開発に携わった叔父が言ったそうです。「世銀の助けがどれほどありがたかったことか。技

間、「イヤだ」という思いがこみ上げてきました。無識者の人の家で、電気も水道もないが無事過ごせるのかと。そんな自分を客観視するもう一人の自分がいて、ぞっとしました。世銀で10年以上仕事をしながら、無意識のうち

鉄の女と呼ばれて

①

に突き当たるたび、心の中で問うたものです。「ナディアが喜んでくれるか」と。日本も1953年から66年にかけて、黒部第4ダムなどの電源開発、また新幹線や高速道路による交通網整備など世界銀行から融資を受けた。

大学を辞めて世銀に移ると告げるとき、父は「金貸しになり下がるのか」と怒りました。その父に、新幹線の開発に携わった叔父が言ったそうです。「世銀の助けがどれほどありがたかったことか。技

お世話になる家で荷を解いた瞬間、「イヤだ」という思いがこみ上げてきました。無識者の人の家で、電気も水道もないが無事過ごせるのかと。そんな自分を客観視するもう一人の自分がいて、ぞっとしました。世銀で10年以上仕事をしながら、無意識のうち